

GTEC通信 vol.93

ICTの活用などで生徒が英語を使う場面を増やし
4技能を主体としたコミュニケーション能力を育成

名古屋市立名東高等学校

1984（昭和59）年開校。普通科と国際英語科とを擁し、教育目標である「平和を愛し、広い国際的視野に立つ人間」「心身共に健全で、自主自立の精神を持つ人間」の育成を目指す教育活動を展開している。特に国際理解教育や国際交流に重点を置き、2003年度から3年間は文部科学省のSELHi（Super English Language High School）に指定された。その際に開発したコミュニケーション能力の育成を重視した指導法（名東メソッド）は、現在の普通科・国際英語科の英語教育に引き継がれている。また、2014年4月からはユネスコスクールに認定された。学業のみならず、生徒会活動や部活動も盛んであり、高校総体に過去3回出場しているサッカー部をはじめ、全国・東海大会に出場する部が少なくない。

基本情報：公立、共学、普通科・国際英語科

規模：1学年360名（現2学年のみ400名）

主な進路：名古屋大、名古屋工業大、愛知教育大、愛知県立大、名古屋市立大などの国公立大学に計116人が合格
（2015年度入試／現浪計）



取り組みのポイント

- CAN-DOリストに加え、技能ごとに具体的な到達目標を設定して、チームで指導に取り組む。
- 「音読」の重視、パフォーマンステストの導入などにより、4技能のバランス良い向上を図る。
- 世界の諸問題について考え、アクションを起こす体験プログラムを通して、国際感覚を養成する。

取り組みの背景

同校は、かねて国際教育や英語教育に力を注いできたことから、英語に高い関心を持って入学する生徒が比較的多く、いかに意欲を維持・向上させながら実践的な英語力を伸ばすかを追究している。

SELHiでは、リスニング、ライティング、プレゼンテーションの3つの活動を通し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る指導法

を研究し実践を重ねてきた。新課程への移行を機に、この指導法をベースとして4技能をバランス良く伸ばすカリキュラムを模索している。また、2010年、英語科から改編された国際英語科では、英語力と共に、優れた国際感覚を育てるプログラムの開発に注力している。

取り組みの詳細

4技能を育てる柱の活動として
全パートを最低5回は「音読」

英語指導は「チーム名東」をモットーとし、個々の教師ではなく、チームで進めている。生徒に

付けさせたい力を共有するため、新課程に移行するタイミングで、3年間のCAN-DOリスト、及びそれに基づく学年の到達目標を設定した（資料1）。到達目標は技能ごとに具体的に示されており、教員が指導指針としている。では、実際の授業で

どのように4技能の育成を目指しているのだろうか。

初めに、「読む（音読）」と「話す」活動に重点を置く「コミュニケーション英語Ⅰ」の流れを紹介する。授業1コマで英文1パートを完結する流れを基本とする。まず教師によるオーラル・イントロダクションとして、前時の内容を英語で復習するなどウォーミングアップをしてから、デジタル・フラッシュカードを用いて新出単語を確認する。続いてフレーズ・リーディングに移り、音読やシャドウイングを繰り返す。英語科主任の瀬古径代先生は、「音読は4技能育成の柱となる活動と位置づけていますので、どのパートも、何らかの形で5回は読むようにしています。生徒が集中力を維持しながら繰り返し読めるように、虫食いの本文をスクリーンに投影して空所を埋めながら読んだり、適度なスピードで画面から消えていく本文を追いかけてリズムカルに読んだりする工夫をしています」と話す。次にT/F問題で内容確認をした後、生徒がペアになり、キーワードを踏まえてパートの内容を説明するリテリングを行う。さらに、パートに対する自分の考えを英語で相手に伝えるとともに、その内容をライティングする（コミュニケーション英語Ⅱも同様）。

授業中、教師の発言は最小限に留め、生徒が英語を使う場面を増やすことを重視している。活動の時間を確保するために、教科書の本文を投影して板書の時間を短縮するなど、ICTを積極的に活用するのも特徴だ。

週1回外国人講師によるconversationのレッスンを実施

同校の英語教育の大きな特色として、コミュニケーション英語Ⅰの週4コマのうち1コマは、専任の外国人講師が担当するconversationのレッスンとしている点にも注目したい。外国人講師は2名いるため、レッスンでは1クラスが半分に分かれ、会話表現などを中心に学ぶほか、実際に会話をする場面も多く設けている。「学びをより深めようと、コミュニケーション英語Ⅰの通常の授業とのつながりを持たせることも意識しています。例えば、外国人講師から学んだ表現や言い回しをリテリングのキーワードに設定するなど、常にリマインドして関係づけています」（瀬古先生）。

一方、「英語表現Ⅰ」では、「書く」と「話す」活動に力を入れる。文法や構文を学んでからペア活動に移り、生徒が教科書のテーマなどに関して自分の考えを述べ、ライティングを行う。「授業で学んだ文法や構文を自分のものとして獲得できるように、最後の表現活動では、自身の考えに結びつけて発信させています」（瀬古先生）。

自由英作文を含む定期考査に加え パフォーマンステストを導入

評価の方法にも工夫を凝らしている。

コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱの定期考査では授業内容の理解度を問うほか、教科書のテーマに関連して自分の意見を書く問題を設けている。英語表現Ⅰの定期考査は文法問題と表現問題に分かれ、表現問題では教科書に載っているイラストについての感想を60語程度で自由に書くといった問題が出される。こうした英作文の採点は、「キーワードを用いているか」「テーマに沿って書いているか」など、内容を重視して評価する。英語を使って伝えたいという生徒の意欲を伸ばそうと、スペルや文法のミスでは減点しない。

新課程の開始に伴い、学期に1回、スピーキングのパフォーマンステストも実施するようになった（コミュニケーション英語Ⅱでは年に1回）。LL教室で録音した生徒2人1組の会話を、事後に教員が評価する。2014年度のパフォーマンステストは、前半をconversationのレッスンに関する内容、後半を教科書に関連する問題で構成した。例えば、ペアとなる2人に別々のプリントを渡して異なる情報を持った状態にし、お互いに情報交換をすることで問題を解いていく設問などがある（資料2）。日頃のconversationの授業で繰り返し練習するため、情報交換のために必要な英語でのやり取りは円滑に行われる。

パフォーマンステストの評価では、文法的な正確性よりも何について話すかを重視している。1学年担当の図子新先生は、「『自分の意見があるか』『意見がきちんと相手に伝わっているか』『教科書に関連するテーマでは、キーワードを意識しているか』などに着目しています。生徒が積極的に会話できるように、なるべく点数を多く与える方針で評価しています」と説明する。

体験的プログラムを通して 国際感覚を育成

国際英語科は、英語力に加えて国際感覚の育成にも力を注ぎ、英語科を改編して設けられた。国際人としての教養や資質も、グローバルに活躍する人材に欠かせないと考えるためだ。こうした方針を踏まえ、「世界中どこでも役立つ人になろう」「思いのままに英語を使いこなそう」の2つをキャッチフレーズとして、国際理解教育と英語教育を推進している。

新学科の目玉として新設したのが、1・2年次で展開する学校設定教科の「ワールドスタディーズ」である（資料3）。この教科は、教員が教科や校務分掌から独立した立場で集まる「ビジョン委員会」の検討によって生まれた教科横断プログラムで、講義形式は最小限に留め、アクティビティ、外部講師を招いたセミナー、またワークショップなどの多彩な学習形態を通して、生徒の主体性を引き出している。「多様な文化が存在し、互に関わり合う世界で、国際人として責任ある生き方をするために必要な知識、姿勢、技能を身に付ける」を目標とし、2年間で世界の諸問題を知り、考えを深め、行動につなげるというプロセスをたどる。

授業は、本校教員と外部の講師によるTeam Teachingで行う。1年次では環境問題や貧困問題など世界の諸問題について考え、解決の方策を話し合う。例えば、貧困問題を考える授業では、フ

ェアトレードの専門家を講師に招いたり、グループごとに「貿易ゲーム」をして貧困が生じる原因を体験したりして多角的な理解を促す（資料4）。国際英語科主任の板垣真由美先生は、「地球温暖化問題では、その影響や結果について各国や動物の立場に分かれて意見を出し合うロールプレイを行います。こうしたアクティビティを通し、体験的に国際感覚を育てたいと考えています」と述べる。

2年次では活動の幅を広げ、自分の興味に応じて少人数のゼミに分かれてリサーチを進める。1学期中の中間報告を経て、夏休みにはNGOやNPOなどの活動に参加し、9月に最終報告をする。また、11月の修学旅行で韓国の姉妹校「城南外国語高校」を訪問する際には、英語でリサーチや夏休みの活動で体験したことを発表する。3学期には英語によるまとめのプレゼンテーションを行う（資料5）。

取り組みの成果と今後に向けて

2014年12月に1学年の全員が受験したGTEC for STUDENTSでは、ライティングを中心に教師の期待を上回る好スコアとなった（資料6）。「4技能を伸ばす指導の成果の表れと捉えています」（瀬古先生）。さらに今年度は、12月に1、2学年の全員でGTEC for STUDENTSを受験し、4技能の指導成果をスコアの伸びで確認する予定だ。授業では、書いたり話したりすることへの積極性が見て取れる。教師がペアワークの指示を出すと、どの生徒もすぐに会話を始めるようになった。「特にパフォーマンステストを導入してからは、授業中のペアワークへの参加意識が大きく向上したと感じています」（図子先生）。

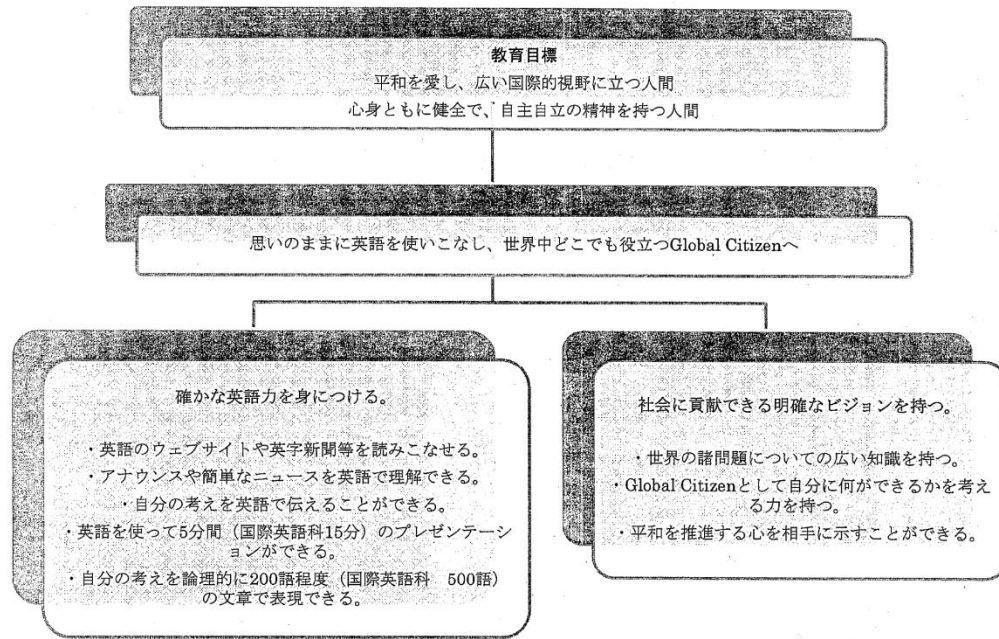
国際英語科では、ワールドスタディーズの授業に、とても熱心に取り組む生徒が増えている。「『英語』に対する関心の高さほどには『国際理解』や『ESD』について知識を持たずに入学した生徒も、1年、2年と学ぶにつれて、非常に意欲的に取り組む姿が見られるようになりました。プログラムを通して主体性を伸ばしてきたからこその変化だと感じています」（板垣先生）。

国際貢献活動などへの関心が高まり、留学希望者が増加し、海外大学を志望する生徒もいる。今年度は、海外留学支援制度の「トビタテ留学JAPAN」に自ら応募し、7名の生徒が審査を通り留学への準備をすすめている。また、ワールドスタディーズの取り組みは地域からの注目度も高く、国際英語科の入学試験の倍率は上昇傾向にある。

「意欲的な生徒の中から、『ワールドスタディーズを通して得られた知見を普通科の生徒や地域にも広げたい』といった声が挙がっていることも大きな成長です。『もっと発信したい』という姿勢が見られるようになったことを、喜んでいます。今後の課題として、学内外に広げていく方策を話し合っていきたいと考えています」（板垣先生）。

【資料 1】英語科 3 年間のCAN-DO リスト、1 学年指導目標

名東高等学校 英語科 3 年間の CAN-DO リスト



名東高校 英語 1 学年 到達目標まとめ

リーディング

説明や物語などを読んで、情報や考えの概要、詳細を読み取ることができる。

筆者や読者の立場、目的や論調を認識できる。

内容を評価し、自分の意見や考えをもつことができる

2500 語レベル。

英検：準 2 級

ライティング

日常的なテーマや問題について、またイラストを見て簡潔にわかりやすく伝える英文を書くことができる。

目標表現を用いて、オリジナルの会話表現を作成することができる。

文法表現を用いて、テーマについて 3 文程度で自分のことを述べることができる。

日常で身近なテーマや話題に関して 15 分で 60 語以上のまとまった英文を書くことができる。

キーワード、主題文などを見つけて、英文を要約することができる。

文法基本例文 100 程度を理解し、覚え、使うことができる。

センター試験レベル 1000 語を発音でき、意味を答えることができる。

GTEC：レベル 4（自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。）

リスニング

英語のネイティブスピーカーがスピード、ポーズ、発音に配慮して話す速さ（WPM130）の会話や話などを聞いて、なじみの話題であれば、おおよその内容と必要な情報が理解できる。

GTEC：レベル 4（英語のネイティブスピーカーがスピード、ポーズ、発音に配慮して話す速さの会話や話などを聞いて、なじみの話題であれば、おおよその内容と必要な情報が理解できる。）

英検：準 2 級

スピーキング

読んだり聞いたりした内容や、学んだり経験した内容に関して、感動した箇所、新たな発見があった箇所などを、自分の英語で簡単に話すことができる。

異文化や言葉と文化の関係に興味をもち、その違いに注意を払うことができる

適切なアイコンタクトをとるなど、相手を意識した姿勢で会話をする

ジェスチャーなどの視覚効果を使うことができる

【資料 2】 1 年次パフォーマンステスト抜粋（ペアとなる 2 人に別々のプリントを渡してテストを行う）

Name (Romaji) _____ Class _____ Number _____

Part 3-1 – Echoing Instructions (2 points each)

Directions: Tell Student B how to find these places. The letter in parenthesis [such as (A) or (B)] is the location on the map.

Use the following phrases:

- blah blah is at the intersection of (street 1) and (street 2)
- blah blah is across the street from blah blah
- blah blah is on the corner – OR – on the northeast corner (or northwest, southeast, southwest)
- blah blah is next to blah blah
- blah blah is between blah blah and blah blah
- blah blah is to the north (or south, east, or west)

9. Town Hall (R)

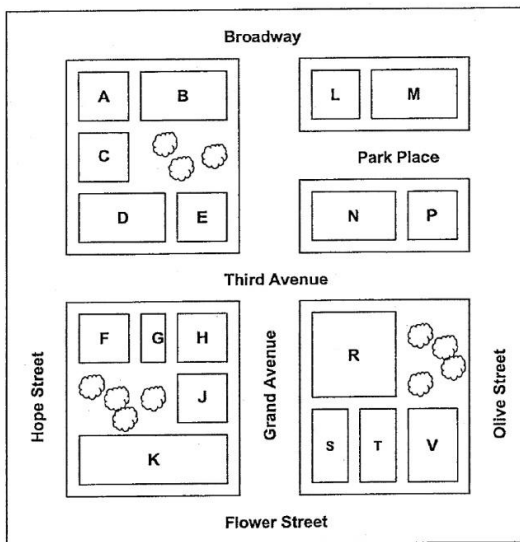
10. Restaurant (N)

11. Bank (H)

12. Book Store (F)

13. Pet Shop (G)

14. Toy Store (S)



Name (Romaji) _____ Class _____ Number _____

Part 3-1 – Echoing Instructions (2 points each)

Directions: Student A will tell you how to find places on this map. *Echo these instructions (repeat what you hear)* and write the names of the places on your map and in the blanks below.

9. _____

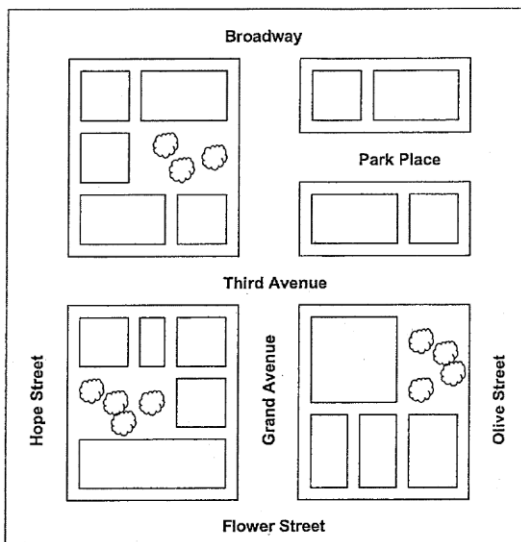
10. _____

11. _____

12. _____

13. _____

14. _____



はじめに

オリエンテーション p.1~4

第Ⅰ部

第1章 世界の現状を知ろう p.5~9
 1-1 世界の課題をあげてみよう p.6~7
 1-2 世界を知ろう p.6~7
 ~「地球の食卓」を使って~
 1-3 世界の人々の人権 p.6~8

第2章 世界の諸課題を考えよう p.10~26
 2-1 貿易ゲームをやってみよう p.11
 2-2 貧困とフェアトレード p.12
 2-3 チョコレートの貿易と貧困 p.14~15
 2-4 世界の紛争について p.16~17
 2-5 地球温暖化をめぐるロールプレイ p.18~24
 2-6 地球環境問題を考えよう p.25

第3章 世界に貢献するための文化理解 p.27~37
 3-1 文化って何? p.28
 3-2 異文化理解と異文化適応 p.29
 3-3 多文化共生のために大切なこと p.30
 3-4 宗教と日常生活の関わり p.31~32
 3-5 イスラム教徒の生活 p.33~34
 3-6 日本の文化を考えよう p.35
 3-7 日本の文化を紹介しよう p.36

第4章 国際協力の取り組み p.38~48
 4-1 国際機関と日本のはたらき p.39~40
 4-2 最適な援助とは何か? p.41
 4-3 課題解決のために私たちができること p.42
 4-4 国際協力を考えよう p.43~44
 4-5 世界に貢献する日本 p.45
 4-6 まとめに p.47

第Ⅱ部

第5章 持続可能な社会へ p.49~59
 5-1 ESDから見た私たちの世界 p.50
 5-2 持続可能な社会のために尽力する人々 p.51
 5-3 持続可能な社会に向けたゼミ活動Ⅰ p.52~53
 5-4 持続可能な社会に向けたゼミ活動Ⅱ p.54
 5-5 持続可能な社会に向けたゼミ活動Ⅲ p.55
 5-6 持続可能な社会に向けたゼミ活動Ⅳ p.56
 5-7 持続可能な社会に向けたゼミ活動Ⅴ p.57~58

第6章 朝鮮半島と日本 p.60~70
 事前レポートの作成について p.61
 6-1 朝鮮半島の生活・文化 p.62~64
 6-2 朝鮮半島の歴史Ⅰ p.65
 6-3 朝鮮半島の歴史Ⅱ p.66~67
 6-4 日韓関係について p.68~69
 事後レポートの作成について p.69

第7章 私たちの未来を考えよう p.71~76
 ~よりよい未来を築くには?~
 7-1 世界の課題分析と解決へ向けた考察 p.72~73
 7-2 英語によるプレゼンテーション p.74~75

Bibliography

おわりに

【資料4】ワールドスタディーズ指導資料（貧困問題を考える）

2-1 貿易ゲームをやってみよう

貿易ゲームの アクティビティ

2-2 貧困とフェアトレード

講義の内容やアクティビティを通して、貧困とは何か、フェアトレードとは何かを理解し、フェアトレードが貧困の解消においてどのような役割を果たすことができるのかを考えていきます。また、先進国で暮らす私たちが発展途上国の貧困を解消するために、消費者として何ができるのかを考え、今後の行動につなげていきましょう。

・講師の方のお名前

・講義内容メモ

（講義で話されたこと、情報をとにかくどんどん書き出しましょう。特に気になったキーワードは詳しく）

・講義・アクティビティの内容についてのまとめ

2-3 チョコレートの貿易と貧困

身近な食品であるチョコレートを取り上げ、国家間の貿易関係がそれぞれの国の経済や社会にどのような影響を及ぼしているのか学んでいきます。また、私たちが普段購入しているチョコレートの原料がどのように生産されているのかを知り、自分たちと世界とのつながりを考えてみましょう。

チョコレートとは…

中南米地帯一帯に栄えたオルメカ、マヤ、アステカといった文明において、紀元前から薬として「飲むチョコレート」が飲用されていた。原料は貨幣としても流通していたとされる。チョコレートは宗教儀式でも使われ、「神々の食べ物」と言われた。16世紀前半、スペインの僧軍コルテスがアステカに侵略した際、その効能に驚き、スペインへ持ち帰り、その後ヨーロッパに広まっていった。現在の「食べるチョコレート」の始まりは、19世紀中葉、イギリスのフライ社が型に流し込み成型したチョコレートを発明したことによる。日本での本格的なチョコレートの製造は、1899年に森永商店が始めたのが最初である。

Q1 チョコレートの原料は何か？

[] ←ココアの原料でもある

国別生産量（2012年）

国名	千t
コートジボワール	1650
インドネシア	936
ガーナ	879
ナイジェリア	383
カメルーン	256

「2015 データブック オブ・ザ・ワールド」より作成

★原料の生産量上位5カ国を世界地図で確認しよう。原料の生産国の特徴は？



Q2 チョコレートを作っている国・地域は？原料生産地と同じですか？

Q3 チョコレートの価格に占める原料の価格はおよそいくらかになるでしょうか？

→ 発展途上国と先進国の経済格差が広がり、[] 問題の一因になっている。

★フェアトレードチョコレートの良さについてプレゼンしてみよう。

名前：[]
製造者：[]
生産国：[]
価格：[] 円

身近でフェアトレードチョコレートを取り扱っているお店

Q4 フェアトレードチョコレートの特徴は？

★『世界がもし100人の村だったら』を鑑賞して、発展途上国における原料生産の現況について考えてみよう。そこで働いている労働者はどんな人たちだろうか？

Q5 カカオ豆生産は現状のままでよいのでしょうか？

Q6 カカオ豆生産の現況によって、どのような状況が望ましいのでしょうか？

【資料5】英語プレゼンテーション指導資料

トピックの調査と分析

★トピックに関するBrain Stormingをしてみよう。

STEP① 選んだトピックに関して各メンバーが考えたアイデアや意見・課題・情報をポストイットに一つずつ書くこと！

*意見だけでなく、収集したデータや事実もどんどん書くこと！

*たとえ自分の中でクリアな意見でなくてもどんどん書くこと！

STEP② 関連のあるもの、近いものを2・3枚集めてカテゴリーごとにまとめよう！

*似た意見がなくても大丈夫。1枚だけのものは無理に他のものと一緒にしようとしなくていいこと！

STEP③ ポストイットのグループにそれぞれタイトルをつけよう！

*直感にまかせてタイトルをつけよう。

STEP④ グループのタイトルが近いものがあれば、さらにまとめよう！

*最終的に10個くらいのグループができればOK!

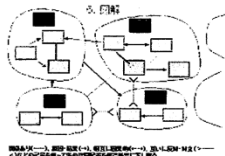
STEP⑤ グループ同士の間に関連性ができるように、線や→でつながり関係を図解してみよう！

STEP⑥ 各グループの中の情報も、それぞれ線や→でつながり関係を図解してみよう！

*その際、

関係あり：ー 原因・結果 →
相互に因果的：⇄ 互いに反対：>ー<

の記号を使おう！



参考：http://www.tfu.ac.jp/taison/edu/navi_PDF/navi06-04.pdf <http://www.writsumei.ac.jp/yamai/kj.htm>

★Brain Storming から考えられる未来のビジョンを赤ペンで模造紙に書き込もう！

★ビジョンを実現するために何ができるか、手立てや必要なことと考え、青ペンで模造紙に書き込もう！

7-2 プレゼンテーション

一発表内容の構築・精選

★発表のアウトラインを考えよう。

①Brain Storming で模造紙にまとめたグループの中からプレゼンテーションのトピックとして取り上げたいものを決めよう！

発表のトピック

②プレゼンテーションの内容

トピックに関して描く未来のビジョン (これからどんな未来にしていきたいか)

実態・現状 (今の状況とどのような取り組みがされているか) (データ〇〇使用 など記入)

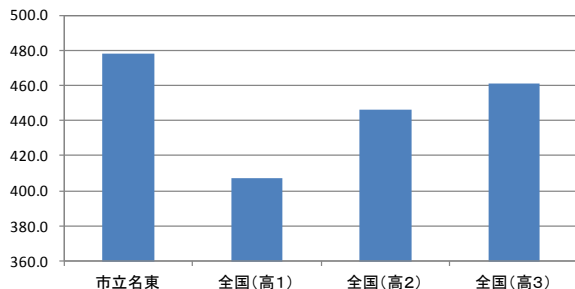
自分たちの考える手立て (どのようにしたらその未来を実現できるか、独自の方策)

まとめ

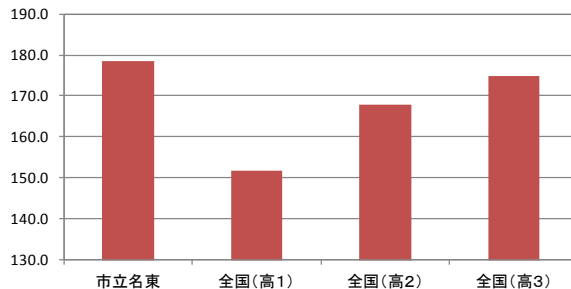
☆さあ、プレゼンテーションの原稿の作成にとりかろう!!

【資料6】GTECスコア (1学年次12月)

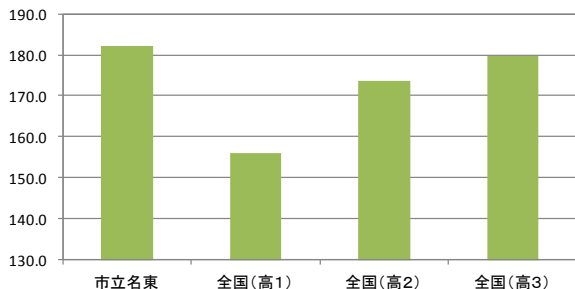
Total



Reading



Listening



Writing

